

2021年度 外国語コンテスト フランス語部門講評

経営学部 下村 武

2021年度のフランス語部門の外国語コンテストは12月23日午前に3名の参加者によって行われました。四年生1名、二年生2名の学生の参加があり、三種類の課題のうち、3名とも同じ課題、ヴィクトル・ユゴーの詩の朗読を選び、私を含めた3名の教員（永田道弘先生、ニコラ・ダソンヴィル先生）によって審査が行われました。3名の学生とも非常に高いパフォーマンスを行い、厳正な審査の結果、一位は四年生加藤さん、二位は二年生三浦くん、三位は二年生竹田さんという順位になりました。一位の加藤さんは2年前のオルレアン大学での語学研修に現地で開催するなど四年間の愛知大学でのフランス語学習の成果が随所に見られ、審査員全員の意見が一致しての優勝となりました。二位と三位については審査員の意見が分かれ同点二位ではどうかという意見になりましたが、語学教育研究室の規定により僅差での二位と三位の順位になりました。

フランス語部門の審査終了後は、参加してくれた学生のみなさんと教員と大学近くの和食レストランにて会食が行われ、普段の大学での授業を忘れ和気藹々とした雰囲気です少し豪華な食事をいただきました。食事の最中にそれぞれの学生さんに現在のフランス語学習の状況や将来について尋ねたところ、加藤さんは21年度の秋季のフランス語検定で準一級を受験したもののわずかな点数で合格点に達しなかったこと、三浦くんは大学卒業後にJICAの海外青年協力隊に応募しアフリカ大陸で働きたいこと、竹田さんは次回のフランス語検定で3級の試験に挑戦することなどを語ってくれました。いずれの学生さんもこれからもフランス語の学習を続けて自分の将来に役立てほしいと思います。

今回は参加を見送った学生さんも、今回の3人に続く気持ちで次回の参加を待っています。